

令和 2 年度第 1 回熊本市総合教育会議

日時:令和 2 年 7 月 3 日(金)14 時 00 分~16 時 00 分

場所:熊本市役所議会棟 2 階 予算決算委員会室

出席者:熊本市 市長 大西 一史
熊本市教育委員会 教育長 遠藤 洋路
委員 泉 薫子
委員 小屋松 徹彦
委員 西山 忠男
委員 苫野 一徳

次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
- 4 閉会

会議開会

議事

(1)熊本市教育大綱(案)について

○議長(大西市長)

前回の会議以降に修正した大綱案について説明をいただいたが、何かご意見・ご質問があればお願いしたい。今回、苫野委員は初めての参加となっており、何か追加すべきご意見等あればお伺いしたい。

○苫野委員

素晴らしい大綱案だと思う。いくつかご議論いただければと思う部分があるので申し上げさせていただく。

1 点目は、7 ページの「特別支援教育の推進」について、西山委員のご指摘により、この後の部分で「学校内外の交流の充実」の文言が付け加わったということであるが、日本の特別支援教育では、子どもたちを障がいのあるなしで分けてしまう部分が多くみられるので、障がいのあるなしにかかわらず、あるいは、学年、人種の違いにかかわらず皆が学び合うインクルーシブ教育の理念がどこかにあると良いのではないか。

2 点目に、6ページ「個別最適化された学びの推進」は非常に重要なことで、これからも推進していく必要があると思うが、学びが個別化すると、得てして「孤立化」した学びになってしまうことがある。単に一人でやればよいというわけではなく、私はよく「ゆるやかな協同性に支えられた個の学びの推進」という言葉を使うが、必要に応じて人に力を借りられる、人に力を貸せる、あるいは先生がサポートしてくれるような安心感の下での学びが望ましいと考えるため、「協同性に支えられた」等々の文言があればいいと思う。

3 点目に 17 ページ「確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進」については、昨年度市立高校改革検討委員会に参加させていただき、高校改革の一つの柱である、自分たちなりの問いをみつけ、自分たちなりの答えに辿り付くという探求カリキュラムの環境を充実させていくことも必要であると思うので、ご検討いただきたい。

○議長(大西市長)

苫野委員のご発言について、何かご意見があれば伺いたい。

○遠藤教育長

3 点とも非常に重要であると思う。2 点目の「協同性」という言葉について、分かりやすい言葉があればと思うがいかがか。

○苫野委員

「個別最適化」の記述のところに「孤立化しないように」という文言と「必要に応じて人に力を借りられる、必要な人に力を貸せるような緩やかな協同性に支えられて個別最適化された学びが推進される」という文言を加えるのはいかがか。

○遠藤教育長

先日の教育委員会会議で、苫野委員は、「個別最適化」という言葉をあまり使わないとおっしゃっていたように記憶しているが、「個別最適化」自体を別の言い方があれば教えていただきたい。

○苫野委員

「個別最適化」というと「効率重視」というイメージがあるので、望ましくないと思っている。学びというのは、没頭する、ゆっくりする、回り道するという意味があると思う。その点でいうと私は「緩やかな協同性に支えられた個の学びの尊重」という言い方をしているが、インパクトがあまりないと、せっかく文部科学省が「個別最適化」という文言を出しているの、準じるのは悪くないのかなと思っている。

○西山委員

特別支援教育、インクルーシブ教育が重要であるというのは同感である。前回私が発言させていただいた内容が、今回 9 ページの「学校教育と福祉との連携」に記載してある。この内容については、福祉の連携ではなく、7 ページの「特別支援教育の推進」に加えていただければ、ご指摘のことは解決するのではないかと思う。

○苫野委員

大賛成である。福祉の中に記載があると、元々分かれていたものを理解のために一緒にするというイメージになるため、日常的にそういった教育環境があることが望ましいと思うので、「特別支援教育」に移した方がいいのではないか。可能であればインクルーシブ教育の文言があればより良いのではないか。

○議長(大西市長)

1 点目の西山委員からいただいた意見は 9 ページから 7 ページに移し、インクルーシブ教育の理念を加筆修正してはどうかということと思うが、事務局にお任せいただいてよろしいか。

2 点目の「個別最適化された学び」については、文科省の文言と整合を取るということであれば必ずしも否定されるわけではないが、「協同性」という文言についても、事務局で改めて調整し、修正してよろしいか。

3 点目の 17 ページ「確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進」について、探求型の学びを記載するという意見であったがいかがか。

○遠藤教育長

教育大綱は、施策の基本方針と重点的取組から構成されており、探求型の学びについては先ほど苫野委員がおっしゃられた 17 ページの重点的取組に記載することも考えられるが、4 ページ～5 ページの施策の基本方針「主体的に考え行動する力を育む教育の推進」に記載するという事もあり得るのかなと。

○議長(大西市長)

では、全体の調整は事務局に一任いただき、ご意見を反映した部分をお示しして、確定させるということでよろしいか。

その他何かご質問があればお願いしたい。

○苫野委員

これは質問であるが、8 ページの事業概要「地域社会と連携した教育環境の整備」に記載されている「学校の規模の適正化や校区の見直し、弾力化」というのは、具体的には、学校統廃合、学校選択制が念頭に置かれているのか。

○遠藤教育長

規模の適正化は統廃合であるが、校区の見直しについては、例えば隣接している学校で、一つの学校は生徒数が多い、もう一つの学校は余裕があるという場合に、どちらの学校も選択できる地区を市全体で配置していくということである。

○苫野委員

統廃合は、熊本市の場合はそれほど問題ではないと思うが、せっかくの学校なので、統廃合するよりは、複合施設化の方がいいと私は思っている。学校は子どもたちだけが学ぶ場ではなく、地域や保護者、小さい子どもたち、大学生、色々な人が共に学べる、多様な人が共有する場にするのも素敵だなと思っている。統廃合の前に、ご検討頂ければいいのではないかなと思う。

○遠藤教育長

統廃合も地域の意見を聞きながら、他の在り方についても検討していきたい。

○議長(大西市長)

「地域社会と連携した教育環境の整備」の中で、統廃合や規模の適正化も手段としてある。ただし、アプローチとしては、学校は多様な皆さんに支えられながら、例えば異年齢集団で行動したり、学習したり、学校の複合施設化というのも今後意見がでてくるのであろうと思うが、今までは、弾力性がない部分もあったかもしれないので、地域力を高めていき、地域と連携していく機会を設けていきたいと思う。

では、教育大綱(案)については、事務局で調整し、最終案として確定させていただきたい。

(2)新型コロナウイルス感染症対策に係る教育委員会の取組状況について

○議長(大西市長)

これから意見交換に入りたい。夏休み期間については、教育委員会会議において、十分なご議論をいただいて決定されたと思うが、新たに感染者が首都圏を中心に拡大しているという状況を踏まえ、今後どのような体制をとっていくのか、また、私自身も教育長に対して、休校の要請をさせていただいた機会もあったが、今までの市長部局と教育委員会の在り方についてどうだったのか等、率直なご意見をいただきたいと思う。

○西山委員

前回の教育委員会会議で議論したことであるが、休校中のオンライン教育の成果について、全国の公立小中学校でオンライン授業を実施したのは5%に過ぎなかったという報道があった中で、熊本市は非常に頑張っていると思う。関係者の努力に敬意を表する。

ただ課題としては、学校に対して行ったオンライン教育の成果に関するアンケート結果で、効果があった学校もあれば、効果がなかった学校もあり、結果にばらつきがあった。一つは環境に差があるということで、それはやがて改善されるだろうと思うのだが、もう一つは、教員の習熟度である。教育センターがご指導されて、一定の成果が上がったと思うが、慣れていない学校があった。やはり ICT に習熟した若い教員がいるかどうかで成果が分かれたのではないかと思う。今後の第二波、三波に備えて、改善していく必要があるのではないか。

次に、泉委員がご指摘なされたことであるが、オンライン授業により、不登校の生徒が授業に参加するようになったというポジティブな面がみられた。報告資料によると学校再開後、欠席や出席停止中の児童生徒に対しての授業のライブ配信についてできる学校から行っているとのことであったため、非常に良い取組だと思う。

最後に、新型コロナが感染拡大する前に先生方と面談した際、高校にはタブレットがないと言われたことがあったため、今後の検討課題かなと思う。

以上、オンライン教育についての感想である。

○議長(大西市長)

先生のオンライン授業の習熟度については、導入して間もない時期でもあったため難しかったと思う。今後も研修や工夫がかなり必要である。教育センターの YouTube を拝見すると、上手な先生の授業が出てくるが、慣れていない先生の課題について現場で把握されているのかを教えていただきたい。また、市立高校のオンライン教育に関して、配備も含めて、どのような検討をしていくかを教えていただきたい。

○教育センター

ご指摘のとおり、オンライン授業については、学校によって差があったというのは認識している。先生方への研修については、集合研修ができない状況から、オンラインで進めている。また、各学校に指導主事を派遣し、学校の様子を聞き取りするとともに、夏休みの間に研修を行う予定である。市長からご指摘いただいたように、授業のイメージが共有できていないという課題があったため、Teamsを使って、すぐにでも取り組むことができるような課題の提示の仕方だったり、先生が最初の一步を踏み出せるような取組を始めているところである。

中学校においては、全くオンライン授業をしないままで授業に入ってしまったため、イメージの共有ができていなかった反省があるので、今後も Teamsを使って研修を進めていく。

現在、先生方からの研修のニーズも高まっていることから、スキルの向上を引き続き図ってまいりたいと考えている。

○教育センター

加えて、現在、オンライン授業を実施してのアンケート調査を先生、子ども、保護者へ無記名方式で実施しており、それを受けて 2 波に備えたいと考えている。

市立高校の先生には、今回すぐにタブレットを配布しており、慣れていただいたということはある。GIGAスクール構想の中で高校のWi-Fi 環境整備が予算化されたので着々と進めている。今後は、これを使ってどうするのが問題になると思う。小中学校には端末がないなかでも工夫してオンライン授業を行った学校もあり、報道等でも取り上げていただいた。Wi-Fi 環境をどう活かすか、高校2校、平成さくら支援学校も含めて今後の考えをまとめていただいている。7月中にはまとまる予定であり、教育委員会も入って方向性を定めたい。

○議長(大西市長)

モデル授業としては YouTube でスキルの高い先生の教え方の配信があるが、途中段階の先生方に対してきめ細かなフォローアップを行い、遠隔授業や ICT ツールを使った教育環境をどう活かしていくことができるかが大事である。全国で 5%程度しか出来なかったということは、GIGAスクール構想を文科省が打ち出しているにもかかわらず、教える先生の活用がポイントだったということだろう。

本市は、小学校に関しては、整備が進んでいた状況が幸いであった。中学校に関しては、今から使おうという状況であったため、しっかり先生のフォローをしていただき、モチベーションを上げるということに力を注いでいただきたい。

市立高校については、国の予算措置、学校の意向等もあるが、市立高校の改革自体にもつながっていくことから、市長部局の政策、財政部門もバックアップしていきたいので、プランにまとめていただきたいと思う。

○泉委員

2点お伺いさせていただく。

1点目は児童生徒の心のケアについては、LINE相談をしていただいている様子で安心したが、不登校までには至らないが、今回の新型コロナで不安が増している子どもが多いのではないかと。この問題は、長期化すると思うので、表面に出ていないが、今後心のケアが必要な可能性がある子どもに対しても長期的に様子を見ていただきたい。

2点目は、先ほど西山委員から意見をいただいた点であるが、オンライン授業については、不登校の子どもが非常に参加しやすく、学校が再開した後に登校できるようになった子どもや、オンライン授業があれば参加したいという子どもがいて、オンライン授業の可能性がみえたと思う。引き続き行っていただきたい。

しかし、SNSの良い面がみえた反面、依存が増え、生活の乱れが出てきているのではないかと思うので、SNS利用のルールや依存しないような対策を学校と一緒に検討していく時期にきているかと思う。こういった点も力を入れていただきたい。

○議長(大西市長)

心のケアについて、長期的な見守り体制を整える。保護者も不安になると子どもも不安にな

るため、健康福祉部局とよく連携し、熊本市として新型コロナにどう対応しているのかを情報提供する。例えば 2 カ月前と比較し検査の体制や病床数が整っている等、市長部局から保護者の皆様に情報提供することが必要である。

オンライン授業については、様々な良い作用が出てきている一方、SNS 依存、ゲーム、スマホの利用については、心配なさっている保護者が多く、生活の乱れにより不登校になっているという事実に対して具体的なアクションをどうするか。

SNS 依存や生活のリズムをどうするかということについて、何かあれば事務局からお聞かせいただきたい。

○総合支援課

SNS の使用については、総合支援課指導主事の中で「情報モラル教育だより」を毎月出している。これまでは SNS の危険性に関する内容を出しているが、本年度も月に 1 回は出す予定で、その中で依存や子ども・保護者に対する啓発内容を掲載する。

また、子ども向けの講話について学校から依頼があっており、対応していく予定である。

○議長(大西市長)

子ども向けの講話は、非常に効果があるのではないかと。例えば、警察や専門家の話を聞く機会があってもいいのではないかと。スマホを使用禁止にするのは難しいが、どういう弊害があるのか、また、詐欺の手口についても子どもたちに知ってもらうことで、自分たちで危険を予知し、リスクを回避する力を身につけていくことが重要になってくるかと思う。

○苫野委員

SNS について提案させていただきたい。学校現場の情報モラル教育は、「SNS は悪」という教育ばかりを目にする。私は、SNS は使い方によって、最強の情報ツールと考えている。むしろ、SNS はこうすればより良く使えるというのを一緒に考える機会を作ることが大事である。熊本市は各学校でスマホルールを作っており、これは重要な実践だと思う。SNS はどうすれば善用に、楽しく使えるのかをみんなで考えていくことをご検討いただきたい。

○議長(大西市長)

良い提案であると思う。私も Twitter を始めて 11 年になるが、情報を発信することにより、交流も増え、ポジティブな面があると感じている。より良く使う方法について一緒に考えていただければと思う。

○小屋松委員

新型コロナ対策の取組をお伺いしたいのだが、先生たちが学校を消毒しているのか。例えば、スクールサポートスタッフについて整備は進んでいるのか。

○健康教育課

学校には、感染症対策のガイドラインを示しており、共用部分の消毒については、先生方に 1 日 1 回以上対応をしていただいている。

その中でスクールサポートスタッフ等については、今後学校に配置予定としており、新型コロナ対策に係る先生の負担についても、サポートしていただくよう考えている。

○小屋松委員

教育大綱の中の「教員が子どもと向き合うための体制の整備」について気になる点だが、前回の教員委員会会議の中で、令和 2 年度の教員募集状況をみたところ、倍率が低下しており、若者の教員希望離れが進んでいる傾向がある。原因としては、教員の多忙化があるんだろうなと思う。「教員の時間創造プログラム」を定めて努力されていると思うが、スピード感をもってやらないと多忙化の解消はなかなか時間がかかると考える。

また、休校による学習時間の確保のため、各教科年間授業数や行事の見直し等を行っているが、学校や先生が抱えている荷物を少し減らすことをやっていかないと、先生たちの本来の業務時間が取れないのではないかと。オンライン授業もこれからスキルを身に着けるといことで増々負担が増えていく。

以前、「今回の新型コロナの状況は、学校を見直すチャンスでは」と話をしたことがあるが、教師のやる仕事、学校以外でやる仕事については、仕分けができるはずである。その中で学校から外す行事が出てきた際には、保護者や地域からのリアクションも考えられることから、十分に話し合いながら徐々に進めていく。学校が中心となって進めていくことは難しいと思うので、教育委員会が中心となって、良い方向に持っていければいいのではないかと。

○議長(大西市長)

学校行事の整理について、各学校で努力していると思うが、私自身も新型コロナ対策に係る時間を生み出すために、会議は書面協議やオンライン会議でもできるのではないかとこの気づきがあった。今まで効率的にできていなかったところについて、これを機に見直すことができるのではないかと考えている。教師の多忙化と一括りにするよりも、具体的に一つ一つの項目の優先順位や他に代替する方法について考えていくことが必要ではないかと。

教員志望の倍率が下がっている点であるが、熊本市教育委員会は、「教員の時間創造プログラム」やICT施策など様々な取組を行っているため、今後志望する若者が増えてくるのではと思う一方で、世の中全体として、教師や研究職等の人にもものを教える仕事は、あまりにも大変だという風潮があるのではないかと。教育の仕事は、楽しくて尊いものであると感じてもらうことが必要ではないかと思う。

○遠藤教育長

教員採用に関しては、前回の教育委員会会議で、苫野委員が大学の教育学部という事で話を伺ったが、大学への教育委員会からの働きかけがみえないという話があったため、強化をしていかなければならないと思っている。

教員志望者全体が減っていて、市も県も一緒に頑張っていかなければと考えている。まずは多忙化の解消や、学生の意見を聞く。例えば、教育学部の学生さんになぜ教員を志望しないのかを聞いて、どうすれば魅力的な職場になるのか、改善をしていく必要がある。

○議長(大西市長)

教育委員会にも先生がいらっしゃると思うが、どういった時に喜びを感じるのか、先生の立場から、ご意見をお伺いしたい。

○教育次長

私たちは、教育委員会の業務、現場の業務、ともにやる気を感じており、現場の業務に関しては、経験しないとわからない部分があると考えている。今回、学習支援員にたくさんの大学生に来てほしいと考えており、市内の大学にお声掛けをしている。実際に学校現場に行って、先生や子どもの様子をみていただくこと。また、私たちも大学に出かけ、実際大学で講義をする職員もいる。教育長がおっしゃるように、市だけで取り組んでもしょうがないので、県と連携し、裾野を広げていかなければならない。先生の良さを伝えていきたいと思っている。

○議長(大西市長)

苦しい場面ばかりがフォーカスされているようなところもあるので、先生が喜びを感じているところを、例えば、募集の動画で配信する等によって学生たちが職業選択をしていくといいのではないかな。

○西山委員

大学にいる立場として、学生の間では教員になるのは難しいという感覚がある。現在教員免許を取得するためのカリキュラムが大変になっており、教育学部以外で、中学校の免許を取得する人は非常に少なくなってきた。

もう一つは、試験を受けても直ちに本採用とはならず、なかなか教員にはなれないというイメージが強くて、尻込みしてしまう状況があると思う。この問題は、かなり深刻であると考えており、一度臨採になってしまうと、仕事が忙しくて教職のための試験勉強ができないという悪い循環に入ってしまう。できれば、新卒で本採用の人を増やすことができればもう少し、受験者も増えるのではないかな。しかし、長年臨採で苦労している人を落とすわけにもいかないのか、悩ましいところである。

○議長(大西市長)

私も先ほど私学の先生方と話していたが、カリキュラムが詰まるため、大学の理系で教員免許を取る人がそもそも少ないということである。

採用システムの問題についても、今までの考え方から発想を変えて、人材を確保する方法を教育委員会の中で検討していただきたい。

○苫野委員

教育学部の教員として申し上げる。教育学部に入った段階で、教員になるつもりがなかった学生も残念ながら少なからずいる。教員になるのを辞めようと思ったきっかけとして大きいのが、教育実習である。やる気が出た学生もいるが、忙しすぎる、現場がガチガチで、何もかも指示された形でやらなければならないという状況から、自由度のなさ、裁量のなさ、こんなに不自由なのかと感じる学生も少なからずいる。そういう意味では、初年度のサポート体制を充実させること。もう一つは、みんな子どもが好きで、教師になりたいと思っているのに、そういったことで嫌になってしまうのはもったいないので、例えばキャンプや一緒に何かを作り上げるイベントをやる。純粋に一緒に何かを楽しめるという機会が増えれば、先生を志望する学生が増えるのではないかと、そういうのがあっても面白いなという気がする。

○議長(大西市長)

現場の先生をサポートする体制があるかどうかは大きなポイントで、現場を見たら嫌になったということがないように、是非工夫してプラスになるように研究していただきたい。

○西山委員

今後の学校の臨時休校について、感染者が出た学校だけを休校にする対応ということで、文科省の方針でもあり、それで良いと思うが、今後もっと感染が拡大し、全校休校となった場合に2つの問題を心配している。

1つは貧困家庭の問題。現在熊本市の貧困率は17%、7人に1人が貧困家庭であり、35人学級だと5人に1人が貧困家庭と思った方がよい。貧困家庭の子どもが給食に頼って生活する実態があるならば、休校期間が長引くと非常に苦しい立場に置かれる。

もう1つは虐待の問題で、休校が長引くと家庭内の虐待が発生しやすい状況になる。休校するにしても適切に臨時登校日を設けて子どもたちの様子を把握する努力が必要ではないか。オンラインでも行っていると思うが、オンラインでは言えないこともあろうかと思うので、臨時登校日で先生たちが直接会って状況を確認することが大事だろうと思う。

○議長(大西市長)

一斉休校が起こりうる状況というのは、熊本市において感染リスクが上がっている状況。熊本市においてはリスクレベルを独自に設定し、専門家の先生に監修いただいて、毎週検討をし

ている。リスクレベルと学校における感染状況を今後第二波が来れば考えていかなければならない。

それから貧困課題について、今回の休校で課題が見えてきたところであるが、何か対応があれば教えていただきたい。

○遠藤教育長

一律休校ではなく、まずは状況に応じて、登校が可能なところは休校しないというのが望ましい。場合によっては、給食だけ学校でやるとか、工夫して、学習面・生活面のフォローをすることが考えられる。できるだけ登校の機会を確保するということが基本的な方針である。

○議長(大西市長)

私からお尋ねするが、休校で学力格差がでているかと思うが、どのように把握しているか。例えば、前年度と比較する等、どう把握をしているか教えていただきたい。

もう1点は、通常であれば、体育祭等の行事が終わった6月頃から学校が落ち着くと聞いており、本来なら馴染んでいく時期であるものの、馴染めていない子どもがいるのではないかと少し伺ったので、学校の様子をお尋ねしたい。

最後に、新型コロナの影響で修学旅行をどうするか悩ましいと聞いた。キャンセルの場合、多額のキャンセル料について、どう対応するのかをお聞きしたい。

○指導課

学校が再開して1カ月経過しているが、それぞれの学校において学習の理解の状況を確認しながら授業を行っている。理解が不足している子どもに対しては、授業内や放課後などで個別学習をしている。休校のためどれほど影響が出ているかは、まだ現段階では調査が難しいと考えているが、近いうちにテスト等を通して、1学年上の昨年度の状況と比較することも検討しており、長期的にはなるが、例年の熊本市の学力調査においても、全国比較をし状況を把握したい。

行事については、1学期中の実施は難しいため、2学期以降、例年通り運動会や体育祭ができるのか、3密も考慮し、準備期間も含めて当日の実施について、学校に検討をお願いしている。

子どもたちの様子については、アンケート調査では概ね学校再開直後より、好転しているかと思うが、学校それぞれで実態は違うので、指導主事の学校訪問等を通して情報共有していきたい。

修学旅行については、中止ではなく延期対応と国からも通知がきており、延期の方向で業者と調整している。中学校の旅行先はほとんどが関西方面であり、京都市や旅行団体から感染症対策の情報提供や要望があっており、その都度各学校へも情報提供をしている。

キャンセル料については、今後の感染状況が心配であるものの、発生時期については業者と

確認し、保護者へも情報提供したい。

○苦野委員

行事の縮小について提案なのだが、修学旅行もなくなってしまうかもしれない、運動会、体育大会もずいぶん縮小しなければならない等、子どもたちの思い出がなくなるのは悲しいと思うと同時に、今年は特別なことが起こって、先生も教育委員会もみんな困っている、みんなと一緒に難局を乗り切ろうということで、子どもの意見を聞いて、「俺たちがこの行事を作ったんだ」と言えるような年にすることが、逆に良い 1 年にできるのではないかなと思うので、各行事を子どもたちと一緒に考える時間を作っていただければと思う。

○泉委員

学校行事について考えるのは有意義だなと思う。また、今回の体験は、命を考える良い機会になる。先生たちがこの新型コロナにどう対応したか、最前線の医療機関はどう対応したのか、理解力に応じて、命を守る題材として取り上げていただければと考える。

○議長(大西市長)

逆境の状況ではあるが、命の問題や人権の問題が身近に起きている体験を教育の題材として捉える。そういう機会にできるのは素晴らしいと思う。

○西山委員

学力格差の問題について、一番深刻なのは、中学三年生で、入試を控え、非常に不安だと思う。同じ学校の生徒間格差もあるが、学校間格差もあると思う。中学三年生については、夏休み短縮についても 6 日を上限として臨時登校日を設けるとのことで、塾に入らずとも良いように各学校に頑張っていただきたい。

○議長(大西市長)

特に受験生を持つ親御さんは心配なさっていると思う。中学生は、物凄い吸収力、ポテンシャルがある時期だと思う。先生の腕の見せ所でもあると思うので、格差という形にならないようにしていただきたい。

では、様々なご意見をいただいたので、ここでひとまずまとめさせていただく。

新型コロナについてはいただいたご意見を参考に、各部門で対応をお願いしたい。

教育大綱については、ご意見を踏まえ、修正を行い確定させていただきたい。今後も教育大綱を基に、市の教育がさらに進化していくようお力添えをいただきたい。

(16:00終了)